研 究

海外在留邦人の育児ストレス

一ブラジル (サンパウロ)・中国(北京)から一

清水嘉子1)

[論文要旨]

海外在留邦人の数は国際化や海外企業進出の流れを受けて年々増加しており、海外在留邦人の子育で問題を明らかにし、支援についての取り組みが望まれるところである。そこで今回、米国に次いで多いブラジル(66人)や中国(48人)に在留する子育て中の母親に調査を行った。結果として、育児ストレスは中国在留邦人が低かった。家政婦やベビーシッターを雇うことができ、時間的なゆとりや、のびのびと子育でできていることが影響していると考えられた。しかし、特に夫に対する不満や育児の疲れなどは中国在留邦人に有意に高かった。また末子年齢や帰国予定年数がストレスの高さに有意に関係していた。ブラジル在留邦人は中国在留邦人に比べてより子育ての違いや影響を感じており、2国ともに言葉による生活の問題や子育で環境としての治安や外での遊び場の不足、帰国後の不安があった。

Key words:海外在留邦人, ブラジル, 中国, 育児ストレス

I. はじめに

国際化の進展を背景とした企業の海外進出や 国際協力などの増加に伴い、海外在留邦人は過 去最高を更新する873,641人に達した(平成14 年10月現在、対前年比4.3%増¹¹)。仮にこの割 合で増加するとすれば、2006年には100万人を 突破することが見込まれている。

在留邦人がもっとも多く在住する国は米国,ついでブラジル、中国であり、近年は中国の伸びが著しい傾向にある。また、男女別の割合でみると平成11年に初めて女性の数が男性の数を上回ったが、この傾向は平成14年も同様に続き女性が全体の51.8%を占めている。子どもも例外ではなく、その数は学齢期にある者が5万人に上っている。妊娠中をはじめ乳幼児を連れて子育て期間に海外赴任する母親も多くなって

いる。しかし在留邦人を対象にした研究は少なく,母子を対象にしたものはみられるが²⁾育児をテーマとしたものは見当たらない。そこで米国に次いで多く在留邦人が多い国であるブラジルおよび中国に住む子育て期間中の母親に,育児ストレスをはじめとした子育てに関する調査を行った。子育て期間に海外赴任する母親への渡航前の準備や母子保健に関する情報として役立てることを目的として³⁾⁴⁾,実際に暮らす母親の実態を分析し支援について検討した。

Ⅱ. 研究方法

1. 調査期間 平成15年1月~8月

2. 調査地域対象と調査依頼

次の1) 2) の地域に在留する乳幼児期にある 子どもの子育てをしている母親を対象とした。

Childcare Stress among overseas Japanese Residents — from Brazil (Sao Paulo) and China (Beijing) —

Yoshiko SHIMIZU 1) 静岡県立大学看護学部

[1605]

受付 04. 1.13 採用 04. 7.18 1) ブラジルのサンパウロでは日伯援護協会に協力を依頼し、協会の組織員より1世帯ごとに調査の主旨説明を行い、協力の得られた者に調査用紙を配布した。2) 中国の北京市内の日本人の子どもを対象とした幼稚園において、教員より調査の主旨説明を行い調査用紙を配布した。

日伯援護協会および北京市内の幼稚園に調査 依頼文および調査用紙(それぞれの母国語に翻 訳したもの)を、電話およびファックスによっ てその説明と協力の依頼を施設長に行った。協 力確認の得られた施設で調査を行った。

3. 調查用紙

育児ストレス33項目¹¹¹および在日ブラジル人を対象に行われた調査で多く認められた在日外国人ストレス項目7項目を加えた⁶¹40項目に、ストレスへの対処、夫に対する思い、育児幸福、住んでいる国に対する希望、子育ての違いや影響に関する質問項目を加え調査用紙を作成した。育児ストレス40項目は「当てはまる」から「全く当てはまらない」の4段階評価法とし、他は2者択一または多重回答選択法および自由記述法とした。

4. 調査結果の分析

育児ストレス40項目については「当てはまるを4点」から「全く当てはまらないを1点」とし、各項目の平均値と33項目合計値を算出し、平均値未満を低群、平均値以上を高群とした。その他の項目については、各選択件数の2国間による比較を行った。統計処理は windows 版 SPSS 統計ソフト11.5を用い χ^2 検定および t 検定を行った。自由記述については内容を検討し分類した。

Ⅱ. 調査結果

1. 調査用紙の回収

ブラジルでは、150部配布、66部回収(回収率44.0%)した。中国では、150部配布、48部回収(回収率32.0%)した。

2. 国別対象者の属性

母親の年齢と国籍, 夫の年齢と国籍, 子ども

表1 調査対象者の属性(国別)

国 別		在留邦人		
属 性		ブラジル	中国	
	20歳代	2 (3.0)	1 (2,1)	
	30歳代	54 (81.8)	44 (91.7)	
母親の年齢	40歳代	6 (9.1)	3 (6.3)	
	50歳代	1 (1.5)	0	
	無回答	2 (3.0)	0	
	プラジル	3 (6.5)	0	
	中国	0		
母親の国籍			3 (6.3)	
	日本	31 (67.3)	19 (39.6)	
	無回答	32 (69.6)	26 (54.2)	
	20歳代	42 (63.6)	1 (2.1)	
	30歳代	20 (30.3)	31 (64.6)	
夫の年齢	40歳代	1 (1.5)	14 (29.2)	
	50歳代	2 (3.0)	0	
	無回答	1 (1.5)	2 (4.2)	
	ブラジル	2 (4.3)	0	
夫の国籍	日本	28 (60.9)	23 (47.9)	
2	イタリア	0	1 (2.1)	
	無回答	36 (78.3)	24 (50.0)	
	3年未満	31 (47.0)	33 (68.8)	
	3~5年未満	16 (24.2)	10 (20.8)	
毎外年数	5~10年未満	12 (18.2)	5 (10.4)	
テノト 丁 双人	10年以上	5 (7.6)	0	
	無回答	2 (3.0)	0	
	夫の職場 (転勤)	56 (84.8)	46 (95.8)	
	妻の職場 (転勤)	0	0	
毎外での生	夫の研修・勉学	1 (1.5)	0	
舌の理由	妻の研修・勉学	0	0	
in a same	その他	8 (12.1)	2 (4.2)	
	無回答		0	
		1 (1.5)		
過去の海外	ある	25 (37.9)	15 (31.3)	
圣験	ない	39 (59.1)	32 (66.7)	
工名人	無回答	2 (3.0)	2 (4.2)	
	3年未満	15 (60.0)	8 (55.7)	
過去の海外	3~5年未満	5 (20.0)	2 (13.3)	
経験年数	5~10年未満	5 (20.0)	5 (33.3)	
出初入一 致	無回答	5 (20.0)	0	
8 4 5 1- 4				
過去の海外	ある	9 (36.0)	5 (33.3)	
での子育て	ない	14 (56.0)	8 (55.7)	
怪験	無回答	2 (8.0)	2 (13.3)	
帚国予定の	ある	39 (59.1)	36 (75.0)	
	ない	25 (37.9)	11 (22.9)	
有無	無回答	1 (1.5)	1 (2.1)	
	1年未満	8 (12.1)	5 (13.9)	
	1~3年未満後	22 (33.3)	13 (36.1)	
帚国予定時				
胡	3~5年未満後	6 (9.1)	14 (38.9)	
200	5年以上後	1 (1.5)	3 (8.3)	
	無回答	29 (43.9)	1 (2.1)	
	1人	21 (31.8)	8 (16.7)	
	2人	32 (48.5)	31 (64.6)	
子どもの数	3 人	13 (19.7)	9 (18.8)	
200	4人以上	0	0	
	無回答	0	0	
	1歳未満	1 (1.5)	7 (14.6)	
末子年齢	1~3歳未満	21 (31.8)	11 (22.9)	
	3~6歳未満	37 (56.1)	25 (52.1)	
	無回答	7 (10.6)	5 (10.4)	
	日本語	58 (87.9)	41 (85.4)	
子どもに話	在留国言語	0	0	
しかける言	英語	0	0	
装	日本語と在留国言語の混合	7 (10.6)	6 (12.5)	
10	無回答	1 (1.5)	1 (2.1)	
	70.00	9 (13.6)		
7 4日 40 土下 山	あり		The state of the s	
母親の就業	なし	57 (86.4)	45 (93.8)	
	無回答	0	0	
	4 時間以下	4 (77.8)	3 (100.0)	
母親の仕事	4~8時間	3 (33.3)	0	
時間	8~12時間以上	2 (22.2)	0	
	無回答	0	0	
	8時間以下	1 (1.5)	2 (4.2)	
land 11 when	O 1 OFF BH			
失の仕事時	8~12時間	45 (68.2)	33 (68.8)	
夫の仕事時 間	8~12時間 12時間以上 無回答	45 (68.2) 19 (28.8) 2 (3.0)	33 (68.8) 11 (22.9) 2 (4.2)	

n = 66

n = 48

の数、母親の就業の有無と母親と夫の仕事の時間などを**表1**に示した。

母親の年齢では、2 国とも30歳代が81.8~91.7%と多く、母親の就業では就業していない者が86.4~93.8%と多かった。夫の就業時間では8~12時間が多かった。子どもの数は、2人が48.5~64.6%と多く、末子年齢は3~6歳未満が52.1~56.1%と多かった。子どもに話しかける言葉は日本語が8割強を占め、海外在留年数では3年未満が47.0~68.8%と多く、在留の理由として夫の転勤や研修が86.3~95.8%と大方を占めていた。また帰国予定がある者が59.1~75.0%で、1~3年未満後に帰国予定の者がブラジルでは33.3%、中国では3~5年未満後が38.9%であった。

3. 育児ストレス

2国の33項目合計ストレス値、項目平均値、 さらに各国の平均値以上項目を表2に示した。 国別ストレス値ではブラジル在留邦人が中国在 留邦人に比し高く,項目別に見るとストレス項 目No 6.8.10.17.18において t 検定による有意 差が認められた (p<0.01)。項目内容は「子 どもの顔つきや容貌容姿に気がかりがある」、 「夫が子育てに協力的じゃない」、「夫が私の育 児生活の苦労をわかってくれない」、「夜間、育 児のために何度も起きなければならなくて困っ ている」、「育児で体の疲れがたまっている」で すべての項目において中国在留邦人が高かっ た。それぞれの国の項目平均値以上を示した項 目はブラジル在留邦人は16項目、中国在留邦人 は21項目であった。2国で共通して平均値以上 を示した項目は半数近くの14項目であった(表 中下線)。またストレス項目No31.32.34である 育児環境に関する内容および帰国後の不安に対 しては2国ともに最高値を示していた。また育 児ストレスと属性の関係では、表3に示された ように、中国在留邦人では帰国予定年数に、ブ ラジル在留邦人では末子年齢にストレス低群と 高群に有意差が認められた (p<0.01)。帰国 予定1年以上3年未満後では中国在留邦人でス トレス高群が多く, ブラジル在留邦人では末子 年齢3歳以上6歳未満にストレス高群が多かっ た。

4. 夫に対する思い, 育児幸福感

多重回答による表4の夫に対する思いの結果では、2国間による各項目の χ^2 検定において有意差が認められた(p<0.01 p<0.05)。項目としては、「本当によくやってくれている」「大切に思っている」「大変だと思うから多少のことは仕方がない」「不満がある」であった。2

また,表5に示されているように2国共に育児をしての幸福感を感じており、「よくある」が高い値となっていた。特にブラジル在留邦人は育児をしての幸福感をより多く感じており、「よくある」が71.2%であった。中国在留邦人では「よくある」が少ない分、「たまにある」が30%以上を占ていた。

5. 子育てで困っていること、育児ストレス時の対 処と希望

子育てで困っていることでは、ブラジル在留 邦人では57人、中国在留邦人では34人が自由記 述に回答していた。子育てで困っていることに ついての項目では子育て環境, 生活問題, 子ど ものこと, 夫のこと, 自分自身のこと, 帰国後 の不安について表6に示された。治安が悪い、 子どもを外で遊ばせる場所がない、言葉が話せ ないことによる様々な不便さ、夫不在による不 満や母親自身のストレスやストレス発散がうま くできないこと、帰国後の子どもの適応に対す る不安. 子どもに対する性格やしつけなどで あった。またストレス対処では表7に示される ように「他のことで気を紛らわす」と「人の助 けを得る」が26.2~32.1%と高かった。「人と 交流する」や「言葉や育児の勉強をする」は1.8 ~6%と低かった。住んでいる国への希望につ いては表8に示されるように2国共に、「日本 人や自分の国の人との交流の場が欲しい」が 50%前後と高かった。

6. 子育ての違いとその影響

子育での違いについてはブラジル在留邦人では49人、中国在留邦人では27人が自由記述に回答していた。子育での違いは、子どもの育で方や子育で環境において表9に示される記述となった。一人一人違う子どもに対して様々な子

表2 育児ストレス (国別項目平均)

	国 名	在 留	邦 人
育り	セストレス項目	ブラジル	中 国
1	育児のことを考えると漠然とした不安を覚える	2.4	2.4
2	子どもの性格に気がかりがある	2.4	2.7
3	子どもにどう接していいかわからない	2	1.8
4	子どもがあまりにも思い通りにならない	$\frac{2}{2}$	2.2
5	育児について期待していたことと現実との間にギャップを感じてしまうことが多い	2.1	2.1
6	子どもの顔つきや容貌容姿に気がかりがある	1.3**	1.9**
7	同じ年頃の子どもの様子を知って我が子が劣っているのではと不安に思う	1.8	1.9
8	夫が子育てに協力的じゃない	1.7**	2.1**
9	夫は子どもより自分の生活を中心に考えている	1.8	2.2
10	夫が私の育児生活の苦労をわかってくれない	1.7**	2.2**
11	夫の子育ては不完全でかえって迷惑な事をする	1.7	1.9
12	子育てしながらでは就職できるところがなくて困っている	1.7	1.8
13	いつか子育てに余裕ができる頃に就職できるかが不安だ	2.3	2.4
14	子育てに専念しているために社会から取り残された気持ちになる	2.2	2.5
15	周囲の人に子どもの母親としてしか見てもらえないのが辛い	1.8	1.9
16	育児のために睡眠不足の日々が続いている	1.8	2.1
17	夜間育児のために何度も起きなければならなくて困っている	1.5**	2 **
18	育児で体の疲れがたまっている	2 **	2.5**
19	だだをこねられて困ってしまうことが多い	2.2	2.4
20	子どもの機嫌が悪くなると困ってしまう	2.1	2.1
21	暴れて動き回ったりいたずらされると困ってしまう	1.9	2.1
22	子育てから解放されて息抜きできる時間が少なすぎる	2.5	2.2
23	子どもの世話で他のやりたいことができない	2.1	2.3
24	子どもの世話で自分の自由がきかないのがとても辛い	1.9	2.2
25	子育ての毎日同じ事の繰り返しに嫌気がさしてくる	1.8	1.9
26	完全な子育てをすべきだという周囲からのプレッシャーを感じる	1.5	1.6
27	子育てに関する昔ながらの地域や家の慣習を押しつけてくる	1.4	1.6
28	祖父母の忠告によって子育てに対する迷いが生じることがある	1.6	1.8
29	子どもの知的能力に気がかりがある	1.5	1.7
30	子どもの言語能力に気がかりがある	1.8	1.7
31	不可解な事件や犯罪に子どもが巻き込まれるか心配である	3.2	2.8
32	就労している母親に対する社会や行政の配慮が足りない	2.6	2.7
33	教育環境が不備なので子どもの行く末に不安を持つ	2.4	2.5
	育児ストレス項目合計平均値(33項目) 59.4	62.3	56.5
	育児ストレス項目平均値 2.0	2	2.1
34	子どもに対して帰国後の不安がある	2.7	2.6
35	日本の文化に適応できず子育てで困ることがある	2.1	1.9
36	子どもと接する時間がなくて辛い	1.6	1.4
37	子どもが病気をしたときの対応に困る	2.5	2.2
38	子どもに対する差別を感じ辛いことがある	1.6	1.8
39	子育てと仕事の両立が大変だ	1.8	1.6
40	子育てしていても孤独感を感じることがある	2	2.2

^{# **} t 検定 p<0.01

[#] 下線 平均值以上項目

国	名						属 性
			区 分	帰国予定年数			
	中	育児 ストレス		1年未満後	1年以上 3年未満後	3 年以上 5 年未満後	5 年以上後
在	国	低	群	5** -	4**	8**-	3**-
留		高	群	0**	9** _	6**	0**
邦			区 分	末子年齢			
人	ブラジ	育児 ストレス		1 歳未満	1 歳以上 3 歳未満	3 歳以上 6 歳未満	
	ル	低	群	0*	16* ¬	16* ¬	
		高	群	1*	5* -	21* -	

表3 育児ストレスと属性(国別)

#ストレス値中国・ブラジル各国の平均値以上高値群, 平均値以下低値群とする。

χ²検定 **p<0.01 *p<0.05

育てがあるという子育て観の多様性にふれたこ と、他との比較をすることがなく周囲のプレッ シャーや情報がない分のびのびと育児ができた こと、スキンシップを大切にすることやできな いことを責めるのではなくできることを誉める などであった。その影響としては、表10に示さ れるように、子育て観や子どもの育て方に変化 をもたらしていた。他の価値観に接したことに よって、日本の子育てに対する見方が変化し、 言語能力を養うことや様々な人に出会う機会を 設けること、おおらかに何でも受け入れること、 違う人や外国人を受け入れていくこと、自分の 意見を述べること、子どもの感情や心の底の思 いを優先することなどが見られていた。2国に 共通していた内容として、他の子と比較しない ことや、子どもに余裕を持って接することがで きるであった。中国在留邦人では周りに惑わさ れず、しっかりとした方針で自分が判断してい くことが大切となっており、ブラジル在留邦人 ではのびのびとマイペースで子育していた。さ らに、こうした子育ての違いや影響を感じた母 親は表11に見られるようにブラジル在留邦人に 有意に多く認められた (p<0.05)。

Ⅳ. 考 察

平成15年度外務省統計によるとブラジルのサンパウロの在留邦人は男性9,015,女性7,728,うち永住者が男性8,273,女性7,191である。ま

表4 夫に対する思い(国別)

() % 多重回答

	() /0	夕 里 回 台
国別	在留	邦人
夫に対する思い	ブラジル	中 国
本当によくやってくれてい る	31** (18.1)	11** (8.7)
信頼している	41 (24)	27 (21.4)
大切に思っている	30* (17.5)	13* (10.3)
他の夫に比べればまし	12 (7)	10 (7.9)
思いやりの心を持って接し ている	19 (11.1)	12 (9.5)
大変だと思うから,多少の ことは仕方ない	23* (13.5)	26* (20.6)
相手に期待しすぎる	2 (1.2)	4 (3.2)
自分の気持ちをわかってい ない	3 (1.8)	6 (4.8)
不満がある	3** (1.8)	11** (8.7)
その他	3 (1.8)	2 (1.5)
夫は夫, お互いに干渉しな い	1 (0.6)	4 (3.2)
合計件数	171	126

χ²検定 **p<0.01 *p<0.05

た北京では男性4,250,女性2,880のうち永住者は男性292,女性554となっている¹¹。ブラジルでは中国に比べ永住者が多いが、今回の対象者ではブラジルの約半数は帰国予定者となっていた。また今回の調査では比較的在留邦人が集まっている地域を対象としており、在留邦人にとっては生活しやすい地域といえる。さらに過去の海外での子育て経験者は3割おり、海外での生活に慣れている者も含まれている。他の地域で同様の調査を行ったが在留邦人がきわめて少なく、また点在して生活していることから回収率が低くその実態を明らかにすることがでなかった。今回の調査がサンパウロと北京という限られた地域で、人数も十分とはいえないことをふまえた上で以下の考察をした。

1. 育児ストレスについて

我が国の母親の育児ストレスは,先行研究5)~8)から,中国を除く,在日中国人,韓国,

表 5 育児幸福感 (国別)

人 () %

	国 別	在留	邦人
育児幸福感		ブラジル	中 国
よくある		47 (71.2)	33 (68.8)
たまにある		19 (28.8)	15 (31.3)
全くない		0 (0)	0 (0)
無回答		0 (0)	0 (0)

n = 66 n = 48

表6 子育てで困っていること

項	目	内	容
子育て環境		治安が悪いので家に引きこもりがち 子どもを外で遊ばせる場所がない運動不足 空気が悪い 絵本などにふれる施設がない	足になる
生活問題		言葉が話せない 子どもの教育に不安がある 子育てなど相談できる場所がない	
子どもに関すること		子どもの性格しつけのこと 幼稚園にいきたがらないくせについて 兄弟げんか 嫌がらせを受けることがある 子どもが夫と自分に対する態度がちがう アトピーのため食べ物に制限が多く,かぬ	我がまま、我が強い、甘えがひどい家の手伝いをしない、しつけをする時がない、言うことを聞かないがって咳でよる目がさめる
夫のこと		夫が仕事で居ない、子どもとのコミュニケ 夫と子どもの教育方針が違う	ケーションが不足している
自分のこと		自分の時間がもてずストレスがたまる 他の母親と話すのに気を遣う 友人ができない ストレスを発散する機会がない 夫が不在のことが多くすべて自分がやって	ているためストレスがたまる
帰国後の不分	安	うまくやっていけるか 帰国した後の情報がわからない 子どもの教育や性格など適応できるか不安	Ę

表7 育児ストレスの対処(国別)

() % 多重回答

国別	在留	邦人
対 処	ブラジル	中国
人の助けを得る	33 (29.5)	22 (26.2)
気持ちや見方を変える	27 (24.1)	16 (19)
あきらめたり我慢する	9 (8)	9 (10.7)
人との交流をする	2 (1.8)	3 (3.6)
他のことで気を紛らわす	30 (26.8)	27 (32.1)
言葉・育児の勉強をする	3 (2.7)	5 (6)
その他	10 (8.9)	2 (2.4)
合計件数	112	84

表8 住んでいる国に対する希望(国別)

()% 多重回答

	, , , , ,	/
国 別	在留	邦人
希望の内容	ブラジル	中国
母国語の学校や課目がほし い	5 (10.2)	3 (7)
雇用者の子育てしている事 への理解がほしい	9 (18.4)	6 (14)
日本人や自分の国の人との 交流の場がほしい	21 (42.9)	22 (51.2)
保育園や幼稚園の内容や時 間を改善してほしい	4 (8.2)	8 (18.6)
その他	10 (20.4)	4 (9.3)
合計件数	49	43

表9 日本との子育ての違い

	20 11007,1114				
項目	内容				
項目	ブ ラ ジ ル	中国			
子どもの育て方	子どものやることに対しておおらか できないことを責めないできることを誉める しつけが甘い	お手伝いさんに子育てしてもらっているため 子どもに無関心な親が多い よい子に育てることがよしとされる 過保護に育てがち 子どもに対して厳しくない 衣服を着せ暖かくさせる 時間がある分,余裕を持って子どもに接しら れる			
子育で環境	ベビーシッターが育てるの	ので育児に縛られていない んを雇える 子育てについて相談できる場所がない マンション暮らしでもプライベートがない感 じ 子どもだけで公園に行ったりお使いができな い 友達が少なく、限られた人とのみつきあう 祖父母などとの関係がなくなった			

ブラジル, 在日韓国人, 在日ブラジル人, と比 で育児ストレスが低いことが明らかとなった。 較して高いことが明らかとなっているが、今回 の調査から在留邦人は, 在日ブラジル人につい

日本(静岡県)の母親と比較すると、ストレス 合計値および各項目平均値ともに在留邦人が低

表10 子育ての影響

	容		
ブ ラ ジ ル	中国		
日本は一つの価値観という感じだったが、多様な価値 観にふれ良い影響を及ぼした 自由でのがのびと子どもに接する 情報が少ない分自分らしい育児ができる 日本流の子育てがすべて正しい訳でない 子どもは自分とは異なった存在であること 子どもの感情や心の底の思いを優先するようになった 様々な言語能力を養う機会は大切だと思った スキンシップを大切にするようになった マイペースでのびのびと子育てできるようになった 様々な人との関わりがもてるようにし向けることが大 切と考えた もっとおおらかに何でも受け入れようと子どもから教 わった 新しい勉強や学校生活に対する不安も自分のことのよ うに理解でき、その分親子関係が親密になった 外国人や自分と違う人を受け入れるように子どもに教 えるようになった 問りを気にせず自分の意見をはっきり表現することの 大切さを学んだ	国や民族の違いを受け入れ、考え方の違いの中で自分の子どものことは一番よく分かっていることに自信を持つこと 子どもと距離を置くことも必要だと思った 周りに惑わされない子育てを心がける 母はうろたえてはいけない 自分で決断しなければ流されてしまうことがあることを知った 他人の目が気になる時がある 子どもべったりにならない 心の広い豊かな人間として育てるよう心がけるようになった しっかりした方針がないと周囲に流される		
他の子と自分の子を比較しない			

時間に余裕ができ、子どもにも余裕を持って接することができた

いと言える。

その一因として, 子育てに対する社会や周囲 の人々が暖かく、また一緒に子育てしていると いった状況があること, さらにベビーシッター や家政婦を雇う環境にあり、夫が仕事で不在し ていることが特に中国では多いにもかかわら ず、母親が家事や育児から解放され、自分のた めのゆとりの時間が生まれていること、他の子 どもとの比較や周囲からのプレッシャー、情報 などが少ない中でのびのびと子育てできている と考えられた。しかし, 在日外国人に見られて いた帰国後の不安に対するストレスが今回の調 査でも高く認められ、異国に暮らす母親であれ ば誰もが感じているストレスであると考えられ た。そして, 育児環境に対するストレスとして 「不可解な事件や犯罪に子どもが巻き込まれる か心配」や「就労している母親に対する社会や 行政の配慮が足りない」などが高かったことか ら、こうしたストレスは子育てしている母親に 共通した一般的なストレスと考えられた。「育 児で体の疲れがたまっている」や「夜間, 育児 のために何度も起きなければならなくて困って

表11 子育ての違い,影響(国別)

			() %
項目	国 別	ブラジル	中国
違いを感じる	はい	49*- (74.2)	24*— (50)
定くで恋しる	いいえ	13* (19.7)	18* (37.5)
無回答		4 (6.1)	6 (12.5)
海外での子育ての	はい	42*— (63.6)	19*— (39.6)
影響あり	いいえ	16* (24.2)	20* (41.7)
無回答		8 (12.1)	9 (18.8)

いる」のストレスが中国在留邦人に高かったこ とは、末子年齢が1歳未満の子どもを持つ母親

n = 66 n = 48

χ²検定 *p<0.05

が約15%を占めていたことが影響していると考

えられた。乳児期にある子どもの世話は家政婦 には代わることのできない内容であることか ら、こうしたストレスが高いと考えられた。ま た. 夫に対する協力や態度に対する不満につい ても中国在留邦人に高かった。夫の年齢がブラ ジル在留邦人では20歳代が約65%を占めている のに対して、中国では30歳代が約65%を占めて いることから、夫の職場における立場や責任が 中国ではより高く、妻も100%専業主婦である ことなどから、育児が妻に任せっきりになりや すい環境にあると推察された。日本 (静岡県) の母親にもこうした夫の協力や態度に対するス トレスが高いことが明らかとなっており、特に 海外では母親のストレスの発散が閉鎖的環境の 中で高まりやすく, ストレス合計値が低いにも かかわらず夫へのストレスが高くなっていると 考えられた。夫に対する思いでは「大変だと思 うから多少のことは仕方ない」をはじめとする 否定的な回答がより多くを占めていることから も裏付けられよう。

「子どもの性格に対する気がかり」が中国在留邦人に高かったことについては、日本の子どもを対象に経営されている幼稚園で、母親は親同士のコミュニケーションに気を遣ったり、いつも同じ子どもと遊ぶといった特異な環境の中で強く感じられたものと考えられる。また、帰国予定年数や末子年齢は育児ストレスに影響し、特に中国在留邦人では1年から3年未満後に帰国予定のあるもの、ブラジル在留邦人では末子年齢が高くなるにしたがってストレスが高いことが認められた。子どもの帰国に対する不安要因が関係していると考えられた。

2. 海外在留邦人への支援

ブラジル在留邦人は、中国在留邦人に比べより育児の違いや影響を感じていた。ブラジル人は在日も含め先行研究^{6/7)}において、もっとも育児ストレスが低いことが明らかとなっており、同じアジアに比べ文化がより鮮明に異なる国での体験は、母親への影響が大きく、良い影響を及ぼしていた。調査の中に記述されていた治安が悪いことや家の外での育児環境がないことへの問題は、2国ともに共通した問題といえるが、子どもに対する接し方では、スキンシッ

プを大切にし、子どもの気持ちを受け止めよう とすることなど、日本にいるだけでは気がつか ない子育ての基本ともいえる重要な事柄に気づ いている。また、社会全体が子育てをしている 母親を暖かく見つめながらも、こうするべきと いう考えを押しつけることなくのびのびと子育 てできることの良さを、母親たちは実感すると ともに、異文化や国際化の時代にあって、他の 国の言葉について学習することや様々な人との 関係を持つことの重要性を学んでいる。日本で は、地域や社会からの子育てをしている母親に 対するプレッシャーが強く, 母親自身がこうあ るべきだとする信念が強いほど、子どもをうま くコントロールすることに対する不可能感や. 夫の理解や協力を求めてのストレスが高まって いた9。海外生活により母親がこうした環境か ら解放され、より日本の子育てを見つめるきっ かけとなったと考えられる。しかし、言葉の弊 害は大きく,人との交流をもっとも多く求めて いながらも, 同じ在留邦人同士の社会の中に生 活の範囲がとどまっており、在留邦人への言葉 に対する教育の場の必要性が浮かび上がってく る。また、育児ストレス対処では「他のことで 気を紛らわす」が、「人に助けを求める」に並 んで高く, 閉鎖的環境から生じている在留邦人 の受動的特徴が示されたともいえる。このこと は「子育てしていても孤独感を感じることがあ る」のストレスが高いことからも裏付けられよ う。育児に関する相談をする場が少なく、情報 も限られている中で、在留しながらも得られる 相談の場や、情報源としての様々な手段が講じ られることが望まれる。

また帰国後に対する不安の中で特に強く見られたものに、帰国後の子どもの日本社会への適応の問題がある。ロサンゼルスにおける調査(の)にもあるように自己主張が強く個人主義の中で形成された子どもの性格や日本との教育の違いにより、特に末子が学童期にあれば教育の違いによる影響を直接的に受ける年齢にあり、3~5年後に帰国予定が明らかとなっている中で、こうした不安は大きくなっていくと推察された。帰国子女に対するきめ細やかな対応が望まれ、そして周りの人々が帰国子女に対して暖かく受け入れていくことが大切になってくるだろ

う。在留邦人が年々増加している今日,特に在 留邦人数の多い地域に対しては,企業努力に頼 ることのみならず,日本として医療,相談,交 流,教育,情報機能を兼ね備えた子育で支援施 設の設立整備などの支援策が必要になっている と考えられた。

Ⅳ. おわりに

本研究の主旨に賛同して,調査に協力頂いた 在留邦人の母親,調査用紙の配布回収に協力頂 いた日伯援護協会の組織員の皆様,北京在住の 孫氏に心より感謝する。本研究は平成15年度静 岡県立大学教員研究費によって行われた。

参考文献

- 1) 外務省大臣官房領事移住部編.海外在留邦人数 調査統計平成15年版.東京:2003.独立行政邦人 国立印刷局.
- 折戸征也,小島俊行,中村安秀.海外在留邦人の現地出産の割合:母性衛生 2001;42(4): 765-772.

- 3) 母子衛生研究会. 海外母子保健情報アクセスガイド. 東京: 母子保健事業団. 1998.
- 4) 母子衛生研究会. 海外子育てのための携行品ガイド. 東京:母子保健事業団. 1998.
- 5) 清水嘉子,西田公昭. 育児ストレスの構造研究. 日本看護研究学会誌 2000;22(5):55-67.
- 6) 清水嘉子, 増田末雄. 在日ブラジル人の育児ストレス研究.母性衛生 2001;42(2):473-480.
- 7) 清水嘉子. 在日韓国・中国・ブラジル人の母親の育児ストレス:日本の母親との比較から.母性衛生 2002;43(4):530-540.
- 8) 清水嘉子. 育児ストレスの実態研究. 母性衛生 2003: 44(4): 372-378.
- 9) 清水嘉子. 母親の育児ストレスと育児信念の関係. 小児保健研究 2003;62(5):558-568.
- 10) 海外での子育て情報、子連れ海外生活の楽しい ことつらいこと体験談ママたちにインタビュー http:www.mcfh.net/.
- 11) 清水嘉子. 育児環境の認知に焦点を当てた育児 ストレス尺度の妥当性に関する研究.日本ストレ ス科学学会誌 2002;16(3):46-56.